

# 食と農おおいた

2011年9月号 NO83

## おおいた有機農業推進ネットワーク 代表に就任して...

杉浦 嘉雄（日本文理大学 教授）



私は環境教育や鳥類保護を仕事としており「良き消費者」になるよう努めてはいるものの有機農業そのものには全くの素人の人間です。しかし、大分県内の里山の自然や文化を保全・再生する地元地域の方々の活動を、ささやかながらもご支援させていただくなかで、有機農法や無農薬に極力近い減農薬農法は手間がかかる半面、里山の生き物たちに安全な農法であることも実感することができました。

つまり、有機農業は、食の安全・安心を保証するだけでなく、農村環境の本来の基盤である生物多様性の豊かさを保持する「これからの農法」であることも体験的に理解できました。

今の日本は、食品の偽装表示から原発事故による食環境の放射能汚染まで、数多くの人災によって“食に対する信頼”が揺らいでいます。また、その揺らぎの反作用なのでしょうか？一般消費者も“食の安全に対する関心”は過敏なまでに高まっています。

一方、この食も含めた私たち人間の生存を根底から支え続けてくれている「生物多様性による自然の恵み(生態系サービス)」も、日本はもちろんのこと地球規模で揺らぎはじめています。

昨年10月に名古屋で開催された「第10回生物多様性条約締約国会議(COP10)」において、議長国の日本は、地球規模で野生生物がかなりのスピードで絶滅していく「生物多様性の減少状況」を2020年までに、締約国の各国でストップさせるために「20の個別目標」を達成する約束(愛知目標)を交わしました。

大半の日本人が知らない事実とは思いますが、例えば「個別目標の3」では、遅くとも9年後の2020年までに「生物多様性の損失が生じるような事業」は、補助金対象事業も含めて全て廃止・改革すると書いています。

そのことひとつをとっても、日本の近い将来が、さらに有機農業の推進に向かっていくこと

は容易に想像できるでしょう。微力ながらも私の役目は、2年後に有機農業を理解されている本物の代表が就任されるまで、上記のような切り口で、今までに作り上げてきた環境教育や環境地域づくり等のネットワークも駆使して、大分県の有機農業を推進していく輪を少しでも広げることにあると思っています。

会員の皆さま、今後とも、ご支援・ご指導のほど、宜しくお願い申し上げます。

## 環境保全型農業直接支援対策について

諫山二郎

今年4月、突然(?)出てきた環境保全型農業直接支援対策は有機農業圃場への国や地方自治体の支援であるが、十分に理解されないまま制度が始まったという印象を持たざるを得ません。この制度は5年間続く予定なのでその概要をお知らせして、できる限り多くの有機農業者が制度を利用して欲しいと思います。

この制度の対象は 化学肥料、化学合成農薬の5割減+カバークロープの作付け 化学肥料+化学合成農薬5割減+リビングマルチ又は草生栽培 化学肥料、化学合成農薬の5割減+冬季湛水管理 **有機農業(化学肥料、農薬を使用しない取り組み)**である。～についてはエコファーマーであることが条件になっているが、**の有機農業はエコファーマーである必要はありません**。有機農業の定義は化学肥料、化学合成農薬を使わないことであり、有機JAS認定ほ場でなくても認められます。但し、販売する場合は有機という表示はできないので注意してください。

毎年4～6月に市町村に申請書を提出します。最終的に有機の確認は大分県が行いますが、その際栽培記録が必要になります。支援単価は8000円/10a(国4000円、県2000円、市町村2000円)です。

今年有機農業の申請は10市町村で26件、圃場面積は5425aです。市町村によって取り組みにバラつきがあり最初から取り組まない市町村もある反面、積極的に取り組んでいる自治体もあります。制度として曖昧なところがありますが、まず生産者が申請書を出すことが必要です。多くの申請が上がってくれば、県や市町村も有機農業に対する認識を新たにすると期待できます。来年度は是非申請書を提出してください。

## 『エンデの遺言』は私たちにフクシマ以後の生き方を教えてくれる

小坂正則

ミヒャエル・エンデはドイツを代表する童話作家です。日本人のファンも多く、代表作に日本

でも一番読まれている『モモ』や『はてしない物語』などがたくさんあります。亡くなる1年前の1994年にエンデからNHKへ「お金がテーマの番組を制作しないか」と提案があったそうです。当時の童話担当スタッフがエンデに会って2時間の録音テープ（画像は撮ってなかったそうです）をとって帰ったそうですが、エンデが提案する企画の内容を理解できずに、そのまま録音テープはお蔵入りしてしまいました。

しかし、エンデ没後、エンデの追悼番組を企画することになり、このテープを再度聴いたスタッフや経済評論家の内橋克人さんたちが、このテープの内容に大変感動して、『エンデの遺言』番組ができたのです。1999年にBS放送で流れた後、再放送と再々放送と続編（坂本龍一出演）まで作られました。私は『エンデの遺言』にレスター・ブラウンとエイモリー・ロビンスの『未来への提言』はNHKを代表する貴重な歴史に残る番組だと思っています。

エンデは私たちに何を遺したのか

エンデは経済学に大変興味をもっていたそうです。現在の社会は破滅に向かって突き進んでおり、消費をあおることで経済が成り立つ仕組みを精神性や文化を尊重する経済へと変えなければ人類は破滅してしまうと考えていました。彼は、その消費をあおる仕組みの根本に「金利」があるといいます。

「昔は教会が神として存在していたが、現代は銀行が神のように人々や社会を支配している」といいます。ストップオプションや先物取引などの銀行や投資家が行うマネーゲームを規制することは人類にはなぜできないのでしょうか。1997年タイの通貨危機は一夜にしてタイからほとんど全ての外国投資家の資金が逃げ出し、タイを不況のどん底に追いやりました。投資マネーは利益を求めて一夜にして世界中を駆け巡ります。今日でもギリシャや第三世界の経済の破綻などに現されています。それに対抗して金利のない銀行をエンデは提唱しています。スイスには実際に金利のない銀行があるのです。現在日本でも各地にNPOバンクが作られていますが、このような動きは全てエンデのいう金利のない銀行をめざした動きなのです。また、地域通貨や劣化する貨幣なども地域の富が外に出て行かない仕組みとして重要な対抗策です。

フクシマ以後の私たちの具体的な方向性

エンデはこのように言っています。「私はもう第三次世界大戦は始まっていると思うのです。ただ私たちがそれに気づかないだけです。なぜならこの戦争は、従来のように領土を対象とする戦争ではなくて、時間の戦争だからです。それは、私たちの子どもや子孫を破滅させる戦争です」といいます。この時間との戦争とは、現代の私たちは空気や川や海や森などの環境を徐々に破壊しているが、破壊している私たちには直接の被害は見えないから、その過ちに気づいていないのだということです。それでは将来の環境破壊を食い止めるにはどのようにすればいいのかが私たちに問われています。

その回答を出せるのは3.11フクシマを経験した、私たち日本人ではないかと私は思うのです。全知全能のような顔をして支配してきた科学と経済成長という宗教に私たちは洗脳されていた

のではないのでしょうか。科学は薄っぺらい原発の安全神話に象徴されるような不完全な技術に過ぎなかったのです。科学も経済成長も限界あるのです。それを絶対的善として認めてきた「ツケ」が福島原発事故だったのではないのでしょうか。科学と経済成長の呪縛から解放されて、お金では得られない精神的な豊かさと自由な時間の尊さを私たち日本人が3.11で学ぶことができたのなら、このような大事故も貴重な人類の教訓となり得るのではないのでしょうか。

### 自給自足と伝統的な農業が社会を変える

お金や科学が今の私たちの社会の矛盾を作っているとしたら、その流れを変えるためには、お金や科学に捕らわれない生き方を私たちがすればいいのです。自給自足の生活は市場経済に全く貢献しません。ということは「自給自足」は、この社会の矛盾を解決する“解”になるのではないのでしょうか。つまり「自給自足」などの延長線上にある物々交換や域内流通などは投資マネーに支配されない社会変革への解決策なのかもしれません。また昔から嘗々と受け継いできた伝統的な循環型農業は少なくとも化学肥料会社や金融資本に支配されにくい人間らしい経済社会を作り出す大きな「ヒント」になると思います。

## トリ小屋通信

国東市 大熊良一



なんと、我が町のスーパーでも放射能で汚染された牛の肉が売られたことが判明した。テレビを見た母が「大変だ」と心配する。横で見ていた娘、「大丈夫。うちでは、ここ何カ月も牛肉を食べていないから」と返事をする。そうであった。我が家の食卓には何カ月も牛肉料理はあがっていなかった。正確には、買うことが出来なかったのだ。め、面目ない！

フクシマから百数十キロも離れた場所の稲藁らが放射能に汚染されていて、牛の内臓を通る時、放射線を出し肉を汚染した。放射能に汚染されたものは、それ自体が放射能を発するようになる。放射能とはなんと恐ろしいものか。

稲藁だけが騒がれているが、その辺りにある道路、水田、建物、自動車、植物、動物、そして人間、全てのものが放射能まみれであろう。僅かなものを支援物資として南相馬市に送ったら丁寧な礼状が送られてきた。こんな大変な時にそんなことまでしていただくことは無いのにと恐縮したが、その封筒すら怪しいのだ。それぐらいのレベルの話である。

人類は直接、間接に放射能の利益を受けてきたので仕方ない。植物や小鳥などの小動物、魚や人類の何百万倍もの昆虫たちは何の利益も受けてないのに放射能にさらされていて逃げることも知らない。誰かが教えて避難させる方法は無いか？・・・・？ 誰もやらないなら私がやろう。「btnmdiloncvhybrbydbnvj yt534n uurem 以 j ン sg 4 1 位 mv b、 1、 gomen!」。私の知っている唯一の動物・植物バイリンガル語である。訳すと「君たち、そこは危険だ！羽根のある奴はできるだけ遠くに飛べ！足の速いものは遠くに走れ！ 地中に潜れるやつはすぐ潜

れ！ 種のある奴は他の動物に運んでもらえ！ みんな我欲の人間のせいだ。ごめん！・・・」  
今を盛んに無く蝉は、今年産んだ卵は6年後に成虫として地上に出てくる。その時、無事羽が  
そろっているだろうか。私はとても心配している。

「牛肥え過ぎ 農家悲鳴」(7月27日 朝日)。放射能汚染の疑いのある牛を出荷できなく  
て、農家が騒いでいる。出荷時期が来ても餌を食べさせ続けるのだからエサ代に困ることは  
同情する。しかし、事は単純ではない。彼らが心配しているのは、「出荷直前の牛は、人間なら  
メタボな高齢者のような体に太らせている。これ以上太ると、自分では歩けない。暑さにも耐  
えきれず死んでしまうかもしれない」ということなのだ。どこかで聞いた話である。

鳥インフルの時、「普通なら40数日で出荷するはずの鳥を50日以上飼うと、太り過ぎて自  
分の体を支え切れなくなり、死んでしまうものが出るかもしれない」と、農家は心配した。い  
つの間にか、牛もブロイラー化していたのではではないか。放射能が無かったとしても、そん  
な牛肉を食っても大丈夫なのかと問いたい。「牛は工業製品のわけにはいかない」と農家は訴え  
ているらしいが、畜産を工業化しているのは「お前たちだ」というのが自然卵養鶏家のスタ  
ンスである。(ブログ トリ小屋通信より)

## 「新農業人フェア」に参加して

諫山二郎

9月3日(土)に福岡市で新農業人フェア という催しに参加しました。新農業人フェア ...?  
何のことやら分からないイベントです。内容は全国農業者会議が新規就農希望者の相談を受け  
るイベントです。それにしてももっと分かりやすい名称にできないのでしょうか。例えば「新  
規就農者相談会」であれば誰にでも分かるのに...

しかし、言いたいのはイベントの名称にケチをつけることではありません。このイベントの  
目的は県や市町村、法人、農業団体などがブースを出して新規就農を希望する老若男女が多数  
訪れて興味のあるブースで相談をするという意義のあるイベントです。ブースは九州を中心に  
数十あったようです。私は有機農業参入促進協議会というブースの相談員として参加しました。  
昼から3時間の間に約10人の相談がありました。私たちのブースに限らず相談者の多くが20  
代から30代の若者が多かったようです。すでに農家で研修をして独立を目指す若者やブドウの  
有機栽培とワイン醸造に興味を持ちフランスまで研修に行った若者など、やる気のある相談者  
も多かったです。

相談を受けながら感じたことは、真剣に相談に来ている相談者に十分こたえることができな  
いもどかしさです。もちろん重要な問題にその場で応えることができないのは当然なのですが、  
もっと体系的に新規就農者を受け入れる態勢はとれないものかと思いました。例えば研修先の  
リストアップ、その後の就農までのフォローをする組織の紹介など、多くの若者の熱意に応え  
る態勢の整備が急がれます。

今回、大分県は新規参入者を大幅に増やす計画を立て、新規参入の担当者が2人選任されたそうです。大変いいことだと思います。ある調査によれば新規就農者のうち有機農業を希望する人は3割、興味のある人は6割に達するそうです。以前は有機農業が蚊帳の外という時代もありましたが、今は多くの新規就農希望者が有機農業を希望しています。大分県でも有機農業者受け入れの態勢づくりが必要です。

## 有機JAS制度関連のニュース

### 「有機JAS規格に基づく使用可能資材リスト」について

有機認定事業者にとって使用可能資材の判断は悩みの種です。購入資材が有機JAS規格に適合しているか否かの判断をするために資料を取り寄せ、判断しなければなりません。判断が難しい資材も多く、認定機関の判断を仰ぐことが一般的です。

今回、農林水産省の委託事業として有機使用可能資材リスト化事業がスタートしました。有機資材を作っているメーカーが資材の申請をして、その資材が使用可能資材であることを判断できれば農林水産省のホームページに掲載するという事です。委託先は三菱総研ですが、実際に資材の審査をするのは有機JAS資材評価協議会という認定機関を会員とした組織です。来年の4月以降にホームページへの掲載を予定していますが、申請数が多く今年の受け付けはすでに終了しています。今年度はどのくらいの数の資材がリスト化されるのか不明ですが、星の数ほどある資材を本当にリスト化できるのか疑問です。

今回の申請料は無料ですが、今後有料となる可能性もあります。もし一部の資材のみリスト化されれば、それ以外の資材の差別化となることも考えられます。リスト化によって認定事業者が安心して資材を使用できることは賛成ですが、問題もあるようです。

### 有機JAS講習会開催について

有機JAS認定を取得する際は有機JAS講習会の受講が義務付けられています。認定取得を目指している事業者の方は受講してください。

日時 2011年9月30日(金) 13時～16時

場所 大分県保険医会館3F会議室

参加料 3000円

申し込み締め切り 9月22日 (農産物、加工、小分けのコースがあります)

申し込み先 TEL 097 567 2613

FAX 097-567-2614 諫山

**ある日** <sup>ステキな</sup> **提案がありました。** おいしい食物・自分で育てた野菜や花、手作りの物などみんな持ちよって1日だけの小さなマルシェ(市場)ができたらいいね♪

3/11以来、どうやらこの大変な時代を生き抜いていけばよいだろうと多くの人は思っているでしょう。原発事故の状況は明らかになり放射能汚染の拡大と深刻では急がれるような日々を送っている子育て中のママたちの声をニコニコ村が聞く事も大切にしています。

「〜って、真正面から考えるのも大切だけど、(ほ〜)とリラリラして自慢一品料理持てワイワイ集まって、一人をモンモンと考えたこと(ほろ)と笑って、誰かが「うんうん」と聞くと「あ〜そうなの、私もみたいな」女の井戸端会議、楽しんでいるも愛の物々交遊(じり)…。  
「10月10日にマルシェもあちこちをやろうよ」そんな楽しい話に私はのびのびおもうかとも思います。ニコニコマルシェなご名前どうでしょう?



<http://garland-a.net/>



さて…

- ★ 文句のあちこちをさあなら原発の思いを持つ個人・団体・お店をつなぐホームページを作りました。
- ★ お店・団体の紹介マップ、イベント情報、プロジェクト紹介などもしています。
- ★ あひた有機研正も参加させていただきます。ありがとうございます。

皆様はよければごらん下さい。

紹介MAPなど掲載は無料です。

お問い合わせ

自然會やみや ニコニコ村

0977-25-4464 神竹美智子

X-16 → nikonikomura@mx61.tiki.ne.jp

## 「おおいた農業未来塾」研修生募集

有機農家 5 軒で立ち上げた「おおいた農業未来塾」が研修生を募集しています。未来塾は将来大分県内で有機農業に携わり、地域の中心になって活躍する人材を育てることが目的です。研修期間は最低 1 年、原則 2 年で研修費は無料です。

研修・宿泊施設を有している農家もあります。研修先は佐藤農園（宇佐市）有限会社宇佐本百姓（宇佐）株式会社アットファームくにさき（杵築市）ウジャマー農場（豊後大野市）久保田農園（竹田市）

連絡先：佐藤農園 0978 32 0734

ホームページ：www006.upp.so/net.ne.jp/miraijyuku/index.html

## 「青空市」に参加しませんか。

毎週第 4 土曜日に大分市志手の「豆の力屋」駐車場で青空市を開催しています。生産者が直接有機農産物や加工品を販売します。5 月から始めて、少しずつ出展者もお客さんも増えています。消費者に有機農産物や農業のことを知ってもらいたいと地道な活動を続けています。生産者の皆様の参加をお願いします。

**次回開催日 9 月 24 日（土）10 時より**

連絡先 諫山（097-567-2613）

第 19 回火の国九州・山口

### 有機農業の祭典

2012 年 2 月 4（土）～5（日）

阿蘇の司ピラパークホテル

主催：火の国九州山口有機農業の祭典実行委員会

### 有機農業公開セミナー

2012 年 2 月 25（土）26（日）

臼杵市で開催します。

主催：有機農業参入促進協議会  
共催：臼杵市・おおいた有機研 他

大分市下郡 1 6 0 2 - 1 大分県保険医会館

NPO 法人おおいた有機農業研究会 <http://www.d-b.ne.jp/oitayuki/>

おおいた有機農業推進ネットワーク <http://www.d-b.ne.jp/unet/>

TEL097 567-2613 FAX097-567-2614 メール oitayuki@po.d-b.ne.jp